

資本とイデオロギー

目次β版 (2023.02)

※今後、変わる可能性あり。またページ番号は実際の書籍のものではない。

トマ・ピケティ

山形浩生、森本正史訳

目次

序文と謝辞.....	i
はじめに.....	1
イデオロギーとは何か.....	3
境界と財産.....	4
イデオロギーを本気で考える.....	6
集合的な学習と社会科学.....	9
本書で使った情報源：各種の格差とイデオロギー.....	11
人間の進歩、格差の復活、世界の多様性.....	14
格差の復活：最初の方向性.....	18
エレファントカーブ：グローバル化をめぐる冷静な議論.....	20
極端な格差の正当化について.....	24
歴史から学ぶ：20世紀の教訓.....	25
イデオロギーの凍結と新しい教育格差.....	29
複数エリートの復活と平等主義連合形成の困難.....	30
所有、教育、移民の正義を再考する.....	33
世界の多様性：「長期持続」の不可欠性.....	35
自然言語と数学言語の相補性について.....	36
本書の構成.....	38
第I部 歴史上の格差レジーム.....	41
第1章 三層社会：三機能的格差.....	42
三層の論理：聖職者、貴族、平民.....	42
三層社会と現代国家形成.....	43
三層社会の地位低下：革命と植民地化のはざままで.....	45
今日の三層社会.....	46
三層社会における格差の正当化.....	49
分断されるエリート、連帯する人々？.....	50
三層社会と国家形成：ヨーロッパ、インド、中国、イラン.....	52
第2章 ヨーロッパの身分社会：権力と財産.....	54
身分の社会：権力バランス？.....	54
三機能身分、自由労働の促進とヨーロッパの運命.....	57
聖職者と貴族の規模とリソース：フランスの場合.....	60
アンシャンレジーム末期に縮小する貴族と聖職者.....	63
貴族の減少はどう説明できる？.....	67
貴族：革命と王政復古の間の財産階級.....	70

財産所有組織としてのキリスト教教会.....	73
豊かな教会 V S 豊かな世帯と相続の実際.....	76
教会財産——経済法と資本主義の基盤？.....	78
第 3 章 所有権社会の発明.....	81
1789 年の「大区分」と現代財産の発明.....	81
強制労役、雑務、地代：封建主義から財産主義へ.....	83
ロッドとアンシャンレジーム下での永続権の重ね合わせ.....	86
財産の規模を継続することなく、新しい基盤に乗せることは可能か？.....	89
知識、権力、解放：三層社会の転換.....	92
革命、中央集権国家、司法についての学習.....	95
財産主義イデオロギー：解放と神聖化とのはざままで.....	98
所有権社会における格差の正当化.....	100
第 4 章 所有権社会：フランスの場合.....	103
フランス革命と所有権社会の発達.....	103
格差を減らす：「世襲中産階級」の発明.....	106
格差の首都パリ：文学から相続文書館まで.....	107
ポルトフォリオ分散化と財産の形態.....	109
ベルエポック (1880-1914 年)：財産主義で不平等的な近代性.....	111
1880-1914 年のフランス税制：静謐な蓄積.....	113
「四人の老婦人」税金、資本課税と所得税.....	116
普通選挙、新たな知識、戦争.....	119
革命、フランス、平等性.....	122
資本主義：工業化時代の財産主義.....	124
第 5 章 所有権社会：ヨーロッパの道筋.....	127
聖職者と貴族の規模：ヨーロッパの多様性.....	127
戦士貴族、所有者貴族.....	130
イギリスと三層-財産主義の漸進主義.....	133
イギリス貴族は財産貴族.....	136
古典小説での所有権社会.....	137
バークの貴族名鑑：准男爵から石油億万長者まで.....	141
上院、財産主義秩序の守護者.....	142
累進課税をめぐる戦いと上院の凋落.....	144
アイルランド：三機能、財産主義、植民地主義イデオロギーのはざままで.....	147
スウェーデンと四身分社会の憲法化.....	150
一人百票：スウェーデンにおけるハイパー財産別民主主義 (1865-1911 年).....	153
株主社会、財産別投票権：お金の力の限界とは？.....	154
19 世紀所有権社会の不平等性.....	158
所有権社会の三つの課題.....	162
第 II 部 奴隷社会・植民地社会.....	164
第 6 章 奴隷社会：極端な格差.....	165

奴隷のいる社会：奴隷社会.....	165
イギリス：奴隷廃止の補償 1833-1843 年.....	169
奴隷所有者補償の財産主義的な正当化.....	170
フランス：1794-1848 年の二重の廃止.....	173
ハイチ：奴隷財産の公債化.....	176
1848 年奴隷制廃止：補償、規律工房、年季奉公労働者.....	179
強制労働、財産主義神聖化、賠償金問題.....	182
アメリカ合衆国：戦争による奴隷制廃止、1860-1865 年.....	185
米国における段階的な奴隷制廃止や補償の不可能性について.....	191
奴隷制の財産主義的な正当化と社会的な正当化.....	193
「再建」と米国の社会土着主義の誕生.....	195
ブラジル：帝国と人種混合による廃止、1888 年.....	199
ロシア：弱い国家での農奴制廃止、1861 年.....	202
第 7 章 植民地社会：多様性と支配.....	205
ヨーロッパ植民地主義の二つの時代.....	205
入植者植民地、入植なしの植民地.....	208
奴隷と植民地社会：極度の格差.....	210
財産と所得の最大限の格差.....	215
植民者のための植民地化：植民地予算.....	219
歴史的に見た奴隷と植民地収奪.....	224
植民地収奪の残虐性から「穏やかな商業」の幻想へ.....	227
他の国に所有されるつらさ.....	230
宗主国の合法性、植民地の合法性.....	234
仏領植民地における合法的な強制労働 1912-1946.....	237
晩期植民地主義：南アフリカのアパルトヘイト 1948-1994 年.....	239
植民地主義と民主連邦主義の問題.....	242
フランスアフリカ連合からマリ連邦へ.....	245
第 8 章 三層社会と植民地主義：インドの場合.....	248
インドの発明：手始めに.....	249
インドと四層身分：バラモン、クシャトリア、ヴァイシャ、シュードラ.....	254
バラモンの秩序、菜食主義、父権主義.....	257
ジャーティの多文化的な豊かさ、ヴァルナの四層身分.....	259
ヒンドゥー封建主義、国家建設、カーストの変容.....	260
インドにおける国家構築の特異性.....	263
インドの発見とイベリア半島のイスラム包囲.....	265
軍備による支配、知識による支配.....	268
インドにおけるイギリスの植民地国勢調査、1871-1941 年.....	270
インドとヨーロッパの三機能社会における社会集団を数える.....	274
文字の読める地主、行政官、社会統制.....	276
植民地インドとカーストの再硬直化.....	280
独立インド、過去からの地位格差に直面.....	284
インドにおけるアフーマティブアクションの成功と限界.....	288
財産の格差と地位の格差.....	292

社会およびジェンダー枠とその変容の条件	294
第9章 三層社会と植民地主義：ユーラシアの道筋	297
植民地主義、軍事支配、西洋の反映	297
国家が夜警もできないほど小さかった頃	301
国家間の競争と共同のイノベーション：ヨーロッパの発明	304
スミスの中国とヨーロッパのアヘン密輸入	307
保護主義と重商主義：「大分岐」の起源	309
日本：三層社会の近代化加速	312
部落民、不可触民、ロマの社会統合	315
三機能社会と中国国家の構築	317
中国帝国試験：文士、地主、戦士	321
中国の反乱や失われた機会	323
立憲聖職者共和国の事例：イラン	326
シーア派聖職者の反植民地主義正統性	328
平等主義的なシーア派共和国、スンナ派石油王朝：言説と現実	330
イスラム諸国の平等、格差、ザカート	332
財産主義と植民地主義：格差のグローバル化	334
第III部 20世紀の大転換	337
第10章 所有権社会の危機	338
20世紀前半の「大転換」を再考する	338
格差と私有財産の崩壊（1914-1945年）	340
ヨーロッパ財産権主義から米国新財産権主義へ	341
所有権社会の終焉：賃金格差の安定性	345
私有財産減少の分析（1914-1950年）	348
収用、国有化措置、「混合経済」	351
民間貯蓄、公的債務、インフレ	354
過去の清算、正義の強化：私有財産に対する特別税	357
富の減少から永続的分散へ：累進税の役割	360
現代累進税制の英米起源について	364
税制国家と社会国家の隆盛	368
納税の多様性と財務累進性の役割について	371
所有権社会、累進課税、第一次世界大戦	372
財産主義崩壊における社会イデオロギー闘争の役割について	375
社会に組み込まれた市場の必要性について	377
帝国競争とヨーロッパ均衡の崩壊	378
異常な軍事補償から新たな軍事秩序へ	382
所有権社会の崩壊と国民国家の超克	385
民主社会主義とオールド自由主義の間にある連邦連合	387
第11章 社会民主主義社会：不完全な平等	390
ヨーロッパ社会民主主義の多様性について	390
米国のニューディール政策：安売り社会民主主義	393

社会民主主義社会の限界について.....	394
公的財産、社会財産、一時的財産.....	396
権限共有、社会所有の制度化：未完の歴史.....	397
ドイツ共同経営の成功と限界.....	399
ゲルマン北欧型共同経営の普及の遅れについて.....	402
社会党、労働党、社会民主党：興味深い軌跡.....	404
ヨーロッパ共同経営指令から「2x + y」提案へ.....	406
共同経営を超えて：社会所有と権限分割の再考.....	407
協同組合と自己管理：資本、権力、議決権.....	409
社会民主主義、教育、そして米国優位の終わり.....	411
米国：初等、中等教育の初期先進国.....	415
1980年以降取り残された米国下層階級.....	418
法、税制、教育制度の一次格差への影響について.....	424
高等教育と教育、社会の新たな階層化.....	428
お金で大学に入れるか？.....	431
欧米での教育アクセスの格差.....	433
教育の平等、近代的成長の根源.....	435
社会民主主義と公正な課税：実現しなかった機会.....	439
社会民主主義と資本主義および国民国家の超越.....	439
資本フローのグローバル化と自由化の再考.....	442
米国、ヨーロッパ、資産税：議論は続く.....	448
累進資産税、あるいは恒久的な農地改革.....	449
18世紀からの情性で続く資産税.....	452
富への課税の集団学習と将来的な見通し.....	456
交差する軌跡と富裕税.....	458

第12章 共産主義社会とポスト共産主義社会..... 463

財産理論なき権力掌握は可能か？.....	464
「マルクス・レーニン主義」政権の存続について.....	467
共産主義と反植民地主義解放の浮沈.....	471
共産主義と正当な差の問題.....	474
分権的な社会組織における私有財産の役割について.....	476
ポスト共産主義ロシア：オリガルヒ、泥棒政治への転換.....	477
オフショア資産が総適法金融資産を超える時.....	480
「ショック療法」とロシア泥棒政治の起源.....	482
独裁混合経済としての中国.....	485
負の公有財産、私有財産の全能性.....	489
負債の抱え込み、財政公正性の放棄.....	492
中国の格差容認の限界について.....	493
中国の格差の不透明性.....	496
中国：共産主義と金権政治のはざままで.....	498
文化革命が格差認識に与えた影響.....	500
中国モデルと議会制民主主義の超越について.....	502
選挙制民主主義、境界、財産.....	504
一党制国家と党管理民主主義の改革可能性.....	507

東ヨーロッパ：ポスト共産主義への幻滅の実験室.....	509
EUにおける市場原理への「同化」について.....	512
ポスト共産主義と社会排外主義の罍.....	516
第13章 ハイパー資本主義：現代性と懐古主義のはざままで.....	519
21世紀の格差の形.....	520
中東：グローバル格差の頂点.....	523
格差測定と民主主義的透明性の問題.....	525
税務透明性の欠如について.....	528
社会的公正、気候的公正.....	530
国家間と個人間の炭素排出の格差について.....	532
格差の測定と政府の責任放棄について.....	536
不透明性の克服：公的金融登録.....	539
情報時代における公式統計の劣化について.....	542
新財産主義、富の不透明、税制競争.....	544
ハイパー集中化した富の持続について.....	546
21世紀における家父長制の持続について.....	550
貧困国の貧窮と貿易自由化について.....	554
貨幣創造は私たちを救ってくれるのか？.....	556
新財産主義と新金融体制.....	559
新所有権主義とオールド自由主義：ハイエクからEUまで.....	563
能力主義と新所有権主義の創案.....	566
慈善幻想から億万長者の神聖化へ.....	570
第IV部 政治対立の次元再考.....	573
第14章 境界と財産：平等性の構築.....	574
左派と右派の脱構築：社会政治対立の次元.....	575
1945年以來の左派得票：労働者政党から高等教育者の政党へ.....	578
選挙および政治イデオロギー的分断の世界的研究に向けて.....	580
民族人種分断と社会自国主義の研究を国際化する.....	583
政党の刷新、有権者参加の低下.....	585
恵まれない階級の投票率低下について.....	590
教育分断の逆転について：教育の高い党の発明.....	593
教育分断の逆転の堅牢性について.....	596
教育分断の逆転、職業分断の再定義.....	599
左派政党と恵まれない階級：離縁の分析.....	600
「バラモン左翼」と社会教育的な正義の問題.....	601
教育の公正に関する新しい規範の必要性について.....	605
左派と右派から見た財産について.....	609
左派と自営業者：疑念の20世紀年代記.....	613
「バラモン左翼」と「商人右翼」の強みと弱み.....	616
フランスにおけるアイデンティティと宗教的な分断の復活.....	618
自国主義と大いなる政治宗教的な蜂起.....	623
宗教的な分断、出自を巡る分断：差別の罍.....	626

境界と財産：四区分された有権者たち.....	630
有権者の四区分の不安定さについて.....	634
黄色いベスト運動、炭素、富裕税：フランスにおける社会自国主義の罣.....	636
ヨーロッパと恵まれない階級：決別の根拠.....	639
ヨーロッパが新財産主義の道具にされている点について.....	641
第 15 章 バラモン左翼：欧米での新たな分断.....	645
米国政党制の変容.....	645
民主党はグローバル化勝者の政党になるか？.....	649
米国における人種対立の政治利用について.....	653
「生活保護の女王」と「人種棒」：共和党の南部戦略.....	656
有権者の分断とアイデンティティ対立：大西洋の両側での見方.....	659
アイデンティティの流動性と固定分類の危険性.....	661
民主党、「バラモン左翼」、人種問題.....	664
失われた機会と不完全な展開：レーガンからサンダースへ.....	666
イギリス政党制の変容.....	671
イギリスにおける「バラモン左翼」と「商人右翼」について.....	675
ポスト植民地アイデンティティ分断の台頭.....	679
イギリスにおける移民の政治問題化、パウエルから UKIP まで.....	683
EU と恵まれない階級の乖離.....	685
第 16 章 社会自国主義：ポスト植民地的なアイデンティティ主義の罣.....	689
労働者の政党から高等教育者の政党へ：類似性と変種.....	689
戦後期の左派/右派政党制崩壊を再考する.....	693
ポスト共産主義東欧における社会自国主義の台頭.....	696
社会自国主義の台頭：イタリアの場合.....	701
社会自国主義の罣とヨーロッパへの幻滅.....	703
民主党：成功した社会自国主義？.....	707
国際競争と市場自国主義イデオロギー.....	708
市場自国主義イデオロギーとその拡散.....	710
ヨーロッパにおける社会連邦主義の可能性について.....	713
国家を超える民主的空間の構築について.....	715
ヨーロッパ議会の独立主権を各国議会の独立主権から構築.....	718
信頼の再構築と、共通の公正規範を作り出す.....	720
永続的なヨーロッパの公的債務危機を終わらせる.....	723
負債の歴史に頼り、新たな解決策を探す.....	727
ヨーロッパの社会連邦主義的変革に向けた政治的条件.....	730
分離主義の罣とカタロニアシンドローム.....	734
イデオロギー的不協和、税制ダンピング、小国シンドローム.....	738
社会地元主義の罣と超国民国家の構築.....	740
インドの政党構築と分断.....	742
インドの政治分断：階級、カースト、宗教.....	747
インドにおける階級主義的分断の台頭困難について.....	750
恵まれない階級の共通の運命についての認識.....	753
階級分断、アイデンティティ分断：インドにおける社会自国主義の罣.....	755

インドにおける階級主義分断と再分配の未来：交差する影響力	758
ブラジルにおける格差の不十分な政治問題化	762
アイデンティティと階級分断：境界と財産	766
ポピュリズム論争の袋小路と落とし穴	769
第 17 章 21 世紀の参加型社会主義の要素	773
参加と熟議としての公正	774
資本主義と私有財産の超越	777
企業内での権限共有：実験的な戦略	778
累進資産税と資本の循環	780
資産の拡散とユニバーサル資本贈与	783
累進課税の三面構造：資産、相続、所得	785
累進課税への復帰と永続的土地改革	788
社会的・一時的所有権に向けて	791
一つの国における富の透明性	792
憲法に公正な税制を記述する	795
ベーシックインカムと公正賃金：累進所得税の役割	799
炭素排出の累進課税について	803
教育的公正の規範構築について	805
教育の偽善を糾弾し、透明性を促進	809
公正な民主主義：民主的平等性バウチャー	812
参加平等民主主義を目指して	814
公正な国境：社会連邦主義をグローバルな規模で考え直す	816
超国家的な公正と正義に向けて	819
協力と撤退の狭間で：超国家的格差レジームの発達	823
結論	827
イデオロギーと公正・正義探究の闘争としての歴史	827
視線の「脱西洋化」の限界について	829
社会科学の、市民・政治的役割について	831